

# 7月の園だより

## 【園長の言葉】

平成30年度 竜光保育園 第637号

ここにきて、昨年を彷彿させるような梅雨末期の豪雨に見舞われ、復興半ばの被災地への災害が懸念されますが、そんな中においても、七夕会やプール、夕涼み会とお楽しみな行事を心待ちにしている子どもたちは、その元気な笑顔で園庭をにぎわせてくれています。

さて、子どもたちを取りまく環境において、昨今、目を覆いたくなるような子どもへの虐待が東京や北九州市で相次ぎ、尊いのが失われてしまうという悲劇が起きています。いかなる理由があろうとも、子どもを虐待死へと追いやった保護者には強い憤りを禁じ得ないし、その責任は免れるものではありません。しかし、それが保護者へのバッシングのみで終わってしまえば元も子もありません。虐待はストレス社会といわれる今日、様々な要因が重なり、みなさんの家庭にも起こりうるかもしれない事で、誰もが当事者になる可能性があります。と同時に、今後どうすれば再発を未然に防ぐことができるのかという事の起点とせねばなりません。

多くの児童虐待は、保護者の心が追い詰められた末の行動だと思えます。子どもを傷つけずにはいられないほどの心境になる前に、まず保護者自身の心が救われる必要があります。そうは言っても、保護者が自分の行動の虐待化に気づけなかったり、周囲に相談することを躊躇ったりするなかで、保護者の心情はさらに追いつめられてしまう場合があり、虐待はそうした状況のなかで、深刻化してしまいます。そういった時こそ、周囲のちょっとした「元気ないようですが、どうしました?」「私でよかったです、少し話を聞かせていただけますか?」などでの“声かけ”です。子育て等で疲弊している保護者にとって、すぐには根本的な解決へと向かわないかもしれませんが、話を聞いてもらうだけで“ふっ”と少しだけ心が軽くなるはずで、その際、声かけを行った人が相手の思いをすべて受け止め、単独で問題を抱えていかなければならないのでは決してなく、地域の児童相談所(※北九州市では子ども総合センター)などの支援機関につなげていくことが大切です。

子育てや幼児虐待などを長年取材してきたルポライター杉山春さんが、「…(虐待する保護者の)排除ではなく声をかける、叱るのではなく、一緒に(方法を)探していこうという声のかけ方が大事。家族は社会にオープンになっていくことで、SOSを言いやすくなっていくし、いろんな人たちの信頼関係の中で、家族が足りないところを補ってもらいながら子育てをしていいんだという社会を作ることこそが、悲劇を繰り返さないために必要なことである。」とおっしゃっていましたが、あらためてそんな雰囲気が保護者間や保育士との間で醸し出されるような保育園でありたいなあと思うばかりです。

最後に一言。完璧な子育てを目指してないですか。良い意味での脱力感が必要ですよ。それがいい(良い)加減です。いい加減で大切なんですよ。

「琵琶(びわ)の弦(げん) きりり締(し)めればぷつり切れ、さりとして緩(ゆる)めりゃ“ペロン、ペロン”」…伝・お釈迦様がお悟りを開く直前に聞こえてきた詩

## 7月の行事定

- 3日(火) 体操教室
- 5日(木) 美咲ヶ丘七夕会訪問
- 6日(金) 七夕会 (さくら組)
- 10日(火) 体操教室
- 15日(日) 夕涼み会
- 17日(火) 身長・体重測定
- 24日(火) 体操教室
- 26日(木) 誕生会
- 31日(火) 体操教室
- 中旬 避難訓練



保 育 参 観



七 夕 飾 り 付 け



～祥子先生の書道教室～



虫菌のない方のおほめ会

## おすすめ絵本のコーナー



### 「オレ、カエルやめるや」

作: デヴ・ペティ 絵: マイク・ボルト  
訳: 小林 賢太郎 出版社: マイクロマガジン社



米国発の人気絵本で、カエルをやめたくなったカエルの子のお話です。訳者は、コメディアンや演出家等マルチに活躍中の小林賢太郎氏。「あなたはあなたでええやん…」絵本のセリフは、子どもだけではなく大人にも響いてきます。テンポもよく登場キャラクターの色彩や表情もとてもゆたかなユーモアたっぷりの絵本です。

### 『うるし』

作: ロロン 監修: 開 一夫  
出版社: デイスクーパー・トゥエンティワン



東京大学大学院の「あかちゃん学」を専門とする研究科の教授らが、赤ちゃんたちの視線がどのイラストを長く見つめているかを調べ(即ち審査員になってもらって)、それにより作成された“あかちゃんが選んだあかちゃんのための絵本”だそうです。くまさんの手品師が、シルクハットの中からいろいろなものを登場させます。そして最後に現れるのは…?赤ちゃんだけでなく大人もきっと大好きになれる絵本だと思います。

## 給食試食会

